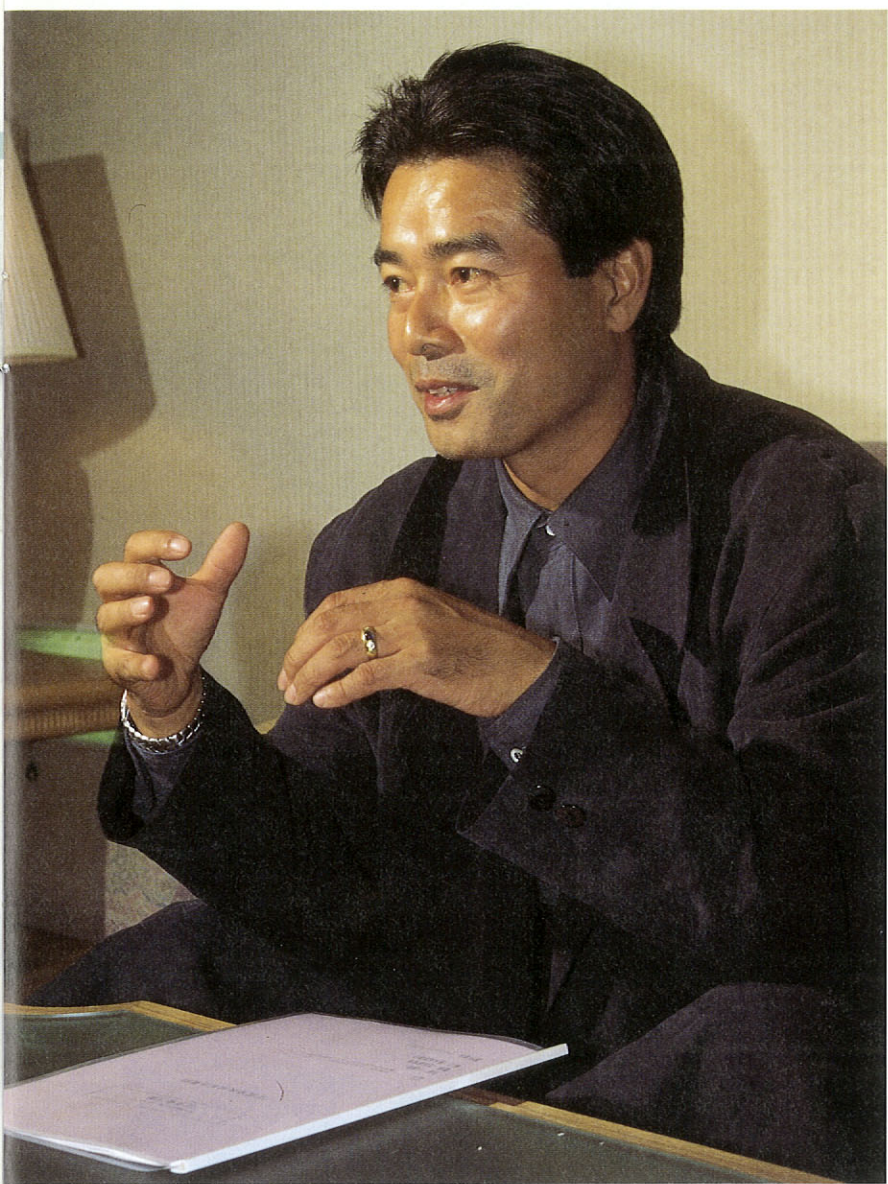


「終始一貫」。小国人気質を 息子にも教えたいですね。

俳優 勝野 洋さん



テレビや映画で活躍中の俳優、勝野洋さんは熊本県の小国町出身。先月、同町出身で世界的な細菌学者、北里柴三郎の一生を描いたTVドラマ「肥後のカミナリ／北里柴三郎」では主役の柴三郎を好演されました。ドラマを通して発見した故郷の素晴らしさなど、勝野さんと熊本の関わりをお聞きしました。

「こないといくらで育ったんだな」

僕は、小中学校六年生まで小国で過ごし、それから大学に入るまでの六年間を熊本市内で暮らしました。

北里柴三郎のことは、自分の町にベス卜菌を発見した偉い先生がいたということと、小さい頃からよく知っていました。TVドラマ「肥後のカミナリ」で、その大先生役の話が来た時は、喜びと恐れを

ですか。

僕について回る「くまもと」

小国は相変わらず山がきれい、あまり変わってはいませんが、熊本市内がすごく発展してるんで、びっくりしました。空港に行く道も整備されていますね。タクシーに乗っていて、「江湖はどつち？」「九学（勝野氏の出身校）はどこ？」「辛島町はどこ？」って……。もちろん、お城が見えれば分かりますけど。故郷がそんな風に変わっていくのは、ちよつぱり寂しい気がしないではありませんが……。

東京に出た当時、必ず言われたんです。「出身はどこですか？—九州です」「九州のどこですか？—熊本です」「やっぱりね」って（笑）。見た目がごつく見えるんでしょうね。僕について回るのは、熊本出身ということ。それをまた誇りにしています。熊本出身者として恥ずかしくないよう、ちゃんとやっていきたいと思っています。



阿蘇でのロケ風景

感じました。また、同じ町で生まれた自分が成長し役者となって、その人物を演じることに、運命的なものさを感じました。ただ、育った環境が一括だったので、役作りの上での気持ちは非常に楽でした。冒頭、草千里や小国の中を走るシーンがあつたんですが、走りながら、僕はこんないいところで育ったんだなと。それから、芝居の中で母親役の水前寺清子さんの熊本弁を聞きながら、また自分で久し振りに熊本弁を話しながら、「熊本弁って、いい言葉だなあ」と感じていました。

今回の仕事をして良かったと思うのは、故郷にちよつとは貢献できたかなというのと、自分の故郷を改めて見ることができたということです。

僕の中に流れる小国人気質？

「肥後のカミナリ」では、官界と闘って民間の研究所を設立した北里柴三郎の「小国人気質」がテーマになっていました。彼が好んで色紙に書いたという、「終始

一貫」という言葉がとても印象的でした。

息子にも教えていきたいですね。

ええ、僕も柴三郎みたいに、よく子どもたちを怒鳴ります。「カミナリ」なんです。でも、その後はちゃんと抱擁してますよ。性格が単純、生き方も一直線。これが県人気質なんでしょうか？僕の場合で言えば、そうです。

山の方へ帰ると

気持ちが悪くなります

富士山の裾野の御殿場に移り住んでもう十四年になります。通学問題とか諸案件が揃ったんで踏切りました。子どもたちは電車で一時間かけて沼津や箱根まで通っていますが、それだけのことはあります。

緑の多いところにいたい。ごみごみしたところは嫌いです。仕事を終えて山の方に向かって帰ると、気持ちが悪く楽になります。育った環境、小国が、やつぱり僕の心の中にあるんですね。でも、自然志向は人間本来の姿ではないん



TVドラマ「肥後のカミナリ／北里柴三郎」より



かつの ひろし (本名 勝野洋)

■プロフィール
1949年 熊本県小国町生まれ
1972年 青山学院大学卒業
1974年 TVドラマ「太陽にほえろ」
テキサス役でデビュー
以後、TV「俺たちの朝」「柳生あばれ旅」
「風の隼人」「太平記」、映画「汚れた英雄」
「はるかノスタルジイ」など多数出演。